

板書計画(例)

より良い話し合いはデジタルか、それとも対面か!?

対面の話し合い

- ・芦屋市の教育について話している。
- ・教育施設や取組について話している。
- ・政治へ参加する意識を高めってもらうために対話している。
- ・市民への満足度を上げるために対話している。

良さ

公正

- ・話し合いをしている人の表情から納得しているかわかる。
- ・その場で疑問を解消したり、意見調整したりできる。

課題

効率

- ・多くの意見を一齐には聞けない。
- ・参加者がすごく少ない、限られる。

公正

公正

デジタルの話し合い

- ・加古川市が導入している。
- ・市民の意見投稿、市民同士の意見交換などできる。
- ・最終的には市の政策に意見を反映させることもできる。
- ・政治に参加してもらう意識を高めたいと思い導入した。

良さ

公正

- ・いつでも、どこでも、多くの人が参加できる。
- ・話し合いの過程と結果を1つのサービスで見れる。

効率

課題

- ・デジタル機器が使えない人は参加できない。
- ・議論が深まりにくいことがある。

公正

効率

デジタルと対面のどちらの方法も良さや課題があるね。

効率と公正の観点を意識しながら、よりよい話し合いをすることが大切だね。

- ・展開1は、「対面の話し合い」について考えます。「効率」「公正」カードは草原先生の説明の後にはってください。
- ・展開2は、「デジタルの話し合い」について考えます。「効率」「公正」の視点を意識し、良さ・課題を作ってください。
- ・板書は、クラスの実態に応じてアレンジをお願いします。

【資料1】 市民と市長・教育長の「対話集会」



【資料2】
「効率」「公正」の
カード

効率

公正